U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国　在庫率は過去最低水準を更新(05年７月在庫･売上統計)

～自動車部門の在庫が大幅減少～

発表日：05年9月16日(金)
(No.UI－107)

第一生命経済研究所　経済調査部
桂畑　誠治(かつらはた　せいじ)
(03-5221-5001：seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

企業在庫（Manufacturing and Trade Inventories and sales）

	企業在庫 Inventories	製造業 Manufacturers	小売業 Retailers	卸売業 Merchant wholesalers	企業売上 Sales	在庫率 Inventories/ Sales Ratio	製造業	小売業	卸売業
04/07	＋0.8	＋0.7	＋0.6	＋1.2	＋1.1	1.299	1.184	1.567	1.173
04/08	▲0.0	＋0.1	▲0.5	＋0.3	＋0.3	1.295	1.197	1.536	1.170
04/09	＋0.4	＋1.0	▲0.6	＋1.2	＋1.2	1.286	1.193	1.513	1.168
04/10	＋1.1	＋1.1	＋1.1	＋1.2	＋0.5	1.294	1.198	1.529	1.173
04/11	＋0.2	＋0.1	＋0.2	＋0.3	＋1.2	1.281	1.184	1.514	1.165
04/12	＋0.9	＋1.4	＋0.3	＋1.0	＋0.3	1.288	1.195	1.516	1.173
05/01	＋0.5	＋0.5	＋0.4	＋0.6	▲0.4	1.299	1.214	1.513	1.187
05/02	＋0.5	＋0.5	＋0.4	＋0.6	▲0.4	1.299	1.214	1.513	1.187
05/03	＋0.4	＋0.4	＋0.2	＋0.6	＋0.8	1.294	1.199	1.510	1.191
05/04	＋0.3	＋0.1	＋0.1	＋0.7	＋0.8	1.286	1.204	1.486	1.183
05/05	＋0.1	▲0.1	＋0.2	＋0.3	＋0.2	1.286	1.194	1.495	1.186
05/06	▲0.0	＋0.1	▲0.5	＋0.4	＋0.8	1.275	1.194	1.458	1.186
05/07	▲0.5	＋0.5	▲1.8	▲0.1	＋1.1	1.256	1.191	1.404	1.179

（出所）商務省（Department of Commerce）

在庫は前月比▲0.5%と市場予想を下回った

05年７月の企業在庫は、自動車販売の好調を映じて前月比▲0.5%と市場予想の同＋0.1%に反し減少した。川上の製造業で増加したものの、小売業、卸売業で減少した。小売段階では、自動車・同部品が同▲5.4%と減少幅を拡大し、家具・家電が同▲0.2%、食料品店が同▲0.4%と減少に転じた。加えて、建設資材が同＋0.3%、衣服が同＋0.0%と鈍化した。自動車・同部品を除く小売在庫は同＋0.0%と６月の同＋0.4%から鈍化しており、個人消費の堅調さによって小売業在庫が抑制されている。卸売業では、耐久財が増加したものの、非耐久財が減少したため同▲0.1と減少に転じた。非耐久財では、薬、紙、化学の在庫が減少した。

在庫率は過去最低を更新

一方、企業売上高は前月比＋1.1%と高い伸びとなった。この結果、在庫率が1.256ヵ月と過去最低を更新しており、在庫は適切にコントロールされている。在庫率が低い水準にとどまっていることからも分かるように、企業は売上の変動に合わせる形で過剰な在庫の増加を抑制している。今後も価格競争が激しいなか原材料価格の高止まりが続くとみられ、企業は需要を上回るペースでの在庫の積み増しには慎重な姿勢を崩さないと見込まれる。

在庫管理能力の向上が米国景気の持続的な拡大の可能性を高める

段階別の在庫率動向をみると、流通改革によって最も早く変化が求められた卸売業では90年代前半から既に在庫率が低かった。さらに、2004年にかけて一段のコスト抑制が求められるなか再び在庫率は低下傾向を強め2004年４月には1.14ヵ月程度まで低下した。足下７月でも1.18ヵ月にとどまっている。製造業は、90年代前半には約1.65ヵ月だったが、在庫管理能力を高めたことで2004年３月には1.2ヵ月程度まで低下し、足下７月でもほぼ同水準に維持されている。原材料価格の上昇等のコスト増加上昇が強いもと、需要に見合った

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

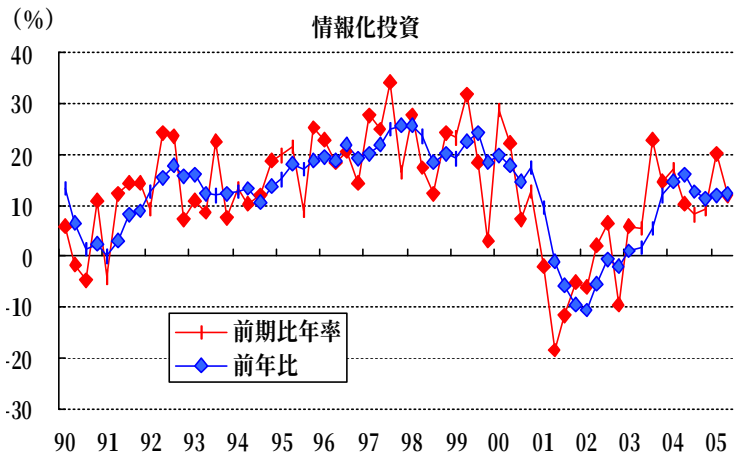
在庫の増加を維持している。消費者に最も近い小売業では、商品を陳列する必要があるため在庫率は一番高いものの、90年代前半の約1.7ヵ月から競争激化を背景としたコスト削減圧力の強まりから低下傾向を辿った。足下では価格転嫁が限定的なものにとどまるなか、在庫の圧縮をさらに進めているが、特に７月には自動車部門の大幅な減少によって在庫率は1.40ヵ月まで急低下した。

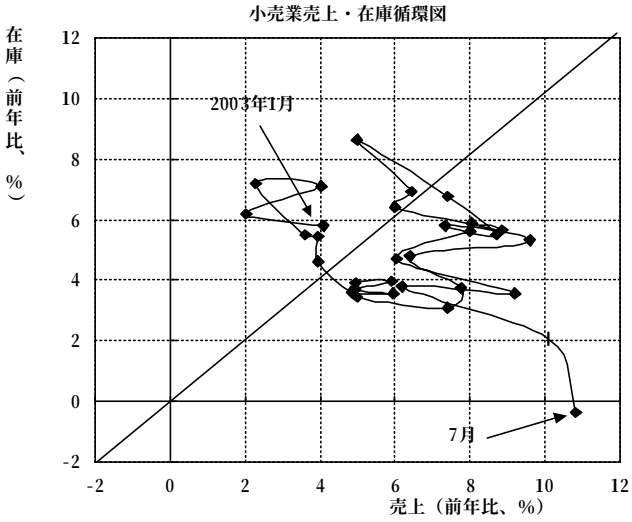
全体でも、在庫管理能力の向上によって90年代前半の約1.5ヵ月から足下で1.25ヵ月を下回り過去最低水準まで低下するなど、企業の効率性はさらに高まっている。このため、原油価格や原材料価格の高止まりに伴う悪影響を吸収し、インフレ圧力の緩和に寄与している。また、在庫管理能力の向上は経済の柔軟性を高め景気の調整を軽微なものにとどめるため、米国景気の持続的な拡大の可能性を高めている。

自動車部門での在庫積み増し等により７～９月期の在庫投資は増加に転じよう

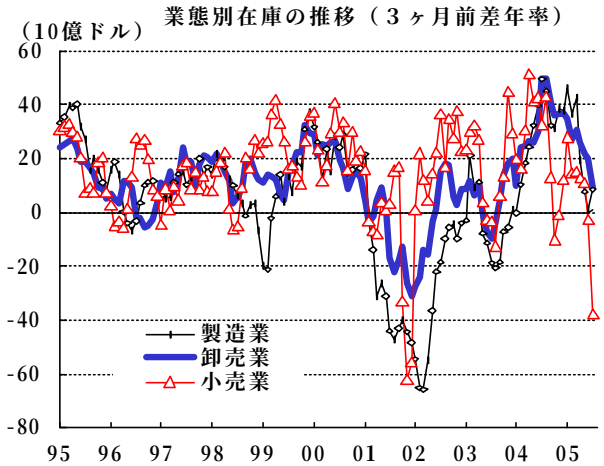
国際的な価格競争が激化している状況のもと、企業は潤沢なキャッシュフローを背景に積極的に情報化投資を行い効率性を高めていることから、在庫管理能力の向上が続く可能性が高い。特に、価格の引き上げが困難な小売段階では、米小売最大手が積極的にＩＣタグの導入を進めるなど取引先を巻き込む形で物流・商品管理の能力向上に努めており、今後在庫率はさらに低下が予想される。このような状況のもと、商品・原油価格の上昇によって投入コストの高い伸びが続くとみられコスト削減のために、企業は需要に見合った在庫の積み増しにとどめると見込まれる。

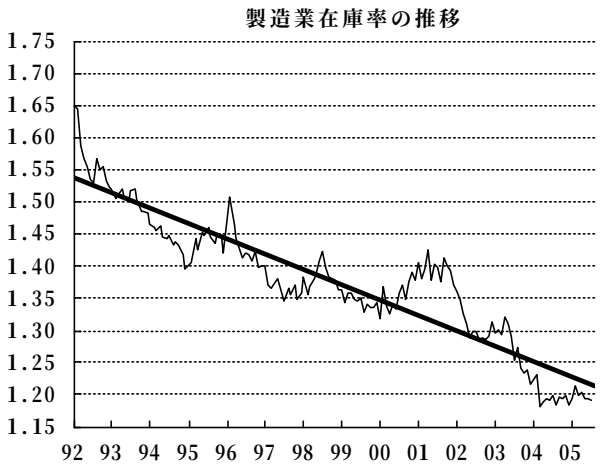
最終需要の動向では、エネルギー価格急騰の影響を受けながらも個人消費は底堅く推移している。今後も雇用・所得の拡大を背景に同＋３％台の伸びが予想される。加えて、設備投資は①これまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、②キャッシュフローの拡大、③株高等を背景に、好調を維持すると見込まれる。以上のように、最終需要が堅調さを維持することに加えて、６、７月と大幅に在庫の減少した自動車部門で、８月以降積極的な在庫積み増しが行われているとみられることから、在庫投資は７～９月期以降増加に転じると予想される。

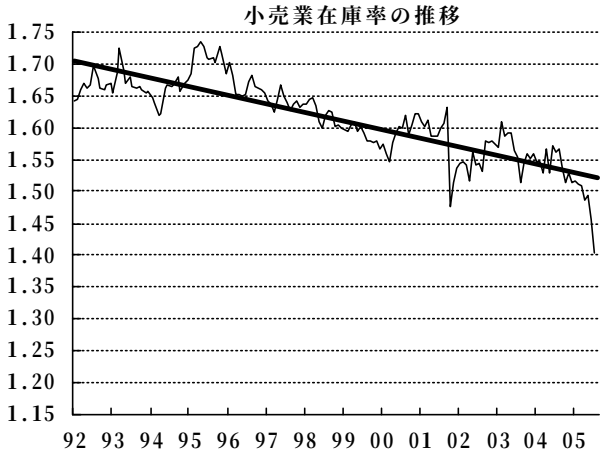


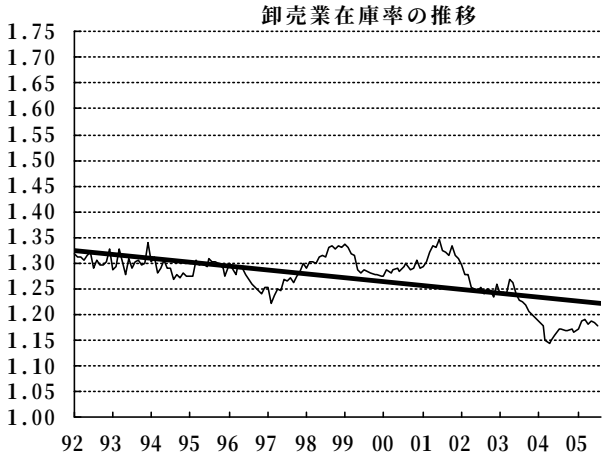


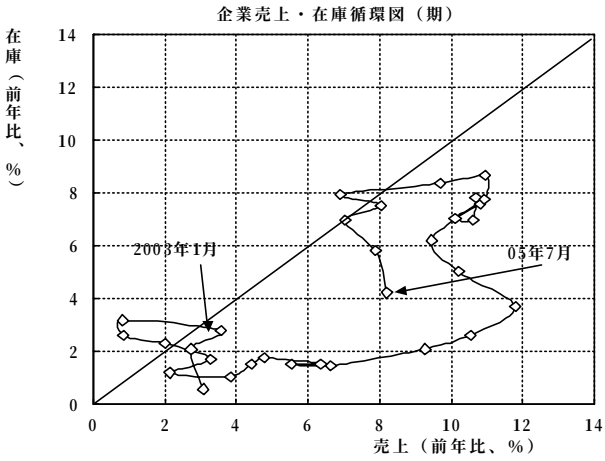
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

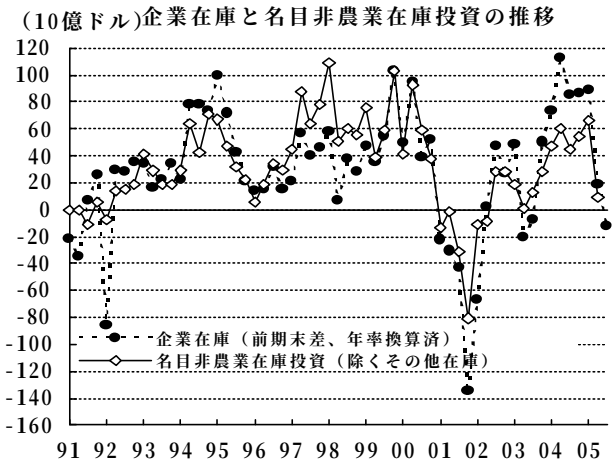


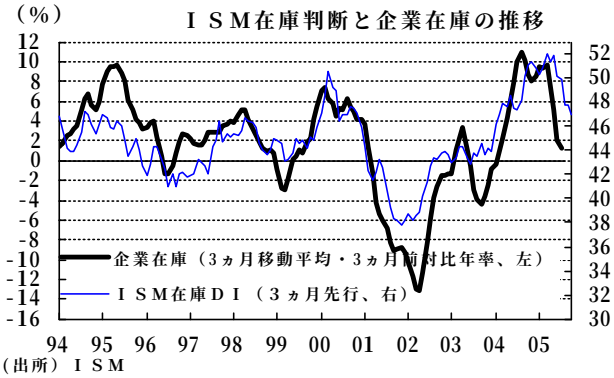




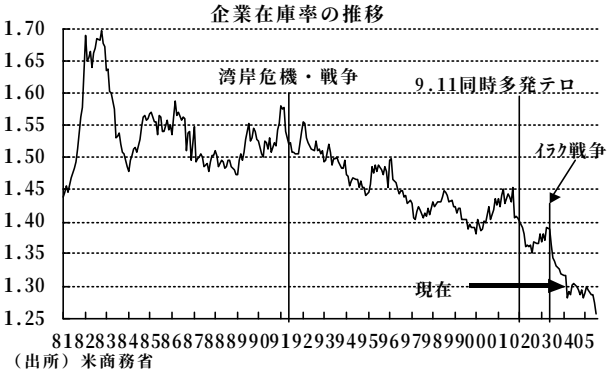








（出所）ＩＳＭ



（出所）米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。